

6月28日 朝会のお話（副校長より）

もうすぐ、7月ですね。7月の1番はじめの日は何日でしょう？「ついたち」です。次の日は「ふつか」。

そのあと、「みっか、よっか、いつか、むいか、なのか、ようか、ここのか、とおか……」と呼んでいます。

「1・2・3・4・5・6……」は「いち・に・さん・し（よん）・ご・ろく……」と読むのに、いちにち・ににち・さんにち・よんにち、と呼ばないのはなぜでしょうか。

日本に外国から言葉が入ってくる前に使っていた日本語があります。これを「大和言葉」といいます。この大和言葉での数の数え方が「ひい・ふう・みい・よお・いつ・むう・なな・やつ・ここ・とを」でした。この数え方に、「日」の読み方である「か」をつけて「ふつか」「みっか」「よっか」……と呼んでいるのです。数の数え方も、「ひとつ・ふたつ・みっつ・よっつ……」と数を表す「つ」をつけて数えていました。（ちなみに数を表す単位には他に「ち」と「ぢ」があります。）

それならば、最初にみなさんに聞いた「一日」ですが、「ひとか」と読むはずだ、と思った人、いますね。「一日」はひと月の初めの日、ということで「月立ち」と言われ、これが「ついたち」という読み方に変わったとされています。特別な読み方です。

さて、まもなくやってくる「三十日」これは、「さんじゅうにち」と呼んでいますが、実は別な呼び方があります。「みそか」です。「おおみそか」という言葉、知っていますね。どうしてこう呼ぶのか、興味のある人は、調べてみてください。

この話とは少し違いますが、1階の低学年算数ルームの前に、1本・2本の数え方のお話が掲示してあります。上につく数字によって、「本」の読み方が変わるのですね。日本語って難しいけど、面白いです。